

令和 7 年度 学校評価 自己評価書 (2 学期)

1 学校の重点目標

1 授業力向上による確かな学力の定着	2 心に届く生徒指導の充実	3 たくましい体づくり	4 小中高連携の強化	5 開かれた学校作りの推進	6 業務改善の推進
--------------------	---------------	-------------	------------	---------------	-----------

2 課題と改善策

(1) 教育目標について

具体目標 (校訓)	評価の観点	職員
ア 考える人 (英知)	めざす生徒像	3.0
イ 心豊かな人 (情操)	めざす学校像	2.9
ウ たくましい人 (健康)	めざす教師像	3.0

(2) 実践 5 項目について

評価の観点	職員	評価結果と改善方策
ア 基本的な生活態度の定着	2.7	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を中心に、挨拶や礼儀等についても指導力を高めていきたい。 無言清掃への取組みに力を入れ、生徒・職員にさらに浸透させていきたい。 教室内、職員室内の整理整頓や安全点検を通じた環境整備にも心がける。
イ 学力の向上	2.7	
ウ 勤労、協調の精神の高揚	2.6	
エ 礼儀と正しい言葉づかい	3.1	
オ 環境の整備、美化	2.4	

(3) 学年・学級経営について

	評価の観点	職員	評価結果と改善方策
学年経営	ア 学級目標の具体化・実践化	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 企画委員会等で情報共有を図る。 学校への保護者の理解と協力について、社会教育関係団体とも連携しながら促していく。
	イ 学年の連携・一貫性		
	ウ 他学年との連携		
	エ 保護者との相互理解、連携		
学級経営	ア 学級目標の適正化	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の生徒への手立て、問題行動 (報告書作成や関係機関との連携等) について、担任だけでなく組織としての対応が図れるようにする。
	イ 学級目標の具体化・実践化		
	ウ 学習意欲向上の配慮		
	エ 学級内相互の信頼関係		

(4) 努力点について

評価の観点	職員	評価結果と改善方策
ア 人権同和教育の推進	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育を学校経営の基盤として、全教育活動を通じて人権教育の大切さと関連性について掲示物などを統一して提示したい。 ICT 機器を活用した授業の構築を図るための情報共有をするとともに、不登校生等への居場所づくりを推進する。 生徒指導委員会及び登校支援サポート会議の充実と共通実践の遂行を図る。 特別支援学級に係る職員間の密な連携を推進し、情報の共有化を図る。 定時退庁の推進と業務改善への意識の高揚を図る。
イ 生徒指導の充実・人間力の向上	2.9	
ウ 学習指導の充実	2.9	
エ 特別支援教育の充実	2.6	
オ 道徳教育の充実	3.0	
イ 進路指導の充実	2.8	
キ 特別活動の充実	2.8	
ク 保健・安全指導の充実	3.0	
ケ 学級経営の充実	2.9	
コ 教育環境の整備	2.9	
サ 教職員の資質向上等	3.0	
ア 家庭・地域との連携	2.8	

3 次学期に向けての取組

(1) 教科指導について

- ア 通知表二期生の利点を生かし、単元ごとの評価問題を充実させ、系統的な指導の充実を図る。
- イ ICT 機器の効果的な利用を推進する。学力向上につながる取り組みとして、一人 1 台タブレットの活用をさらに推進する。
- ウ 生徒が学びの中心となる授業実践を推進し、非認知能力の向上にも意識した授業実践をする。

(2) 生徒指導について

生徒指導及び登校支援サポート会議を充実させ、一人一人の手立ての検討・実践をするとともに、保護者の理解をもらいながら関係機関との積極的な連携を推進する。